

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里(2ユニット合同)		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	平成 28年 11月 4日	評価結果市町村受理日	平成29年1月23日

「富南の郷里」は、伊豆の玄関口の三島市の最南端に、函南町との境にあります。豆州志稿の秋山富南が生まれ育った、およそ3000坪の敷地の中に2階建てで建てられています。北に富士山、東は箱根連山が見渡す事が出来、心組み、ゆっくり、ゆったりとした時間を過ごせる環境です。近隣の人たちのご理解と、さまざまな応援に支えられ「その人と共にある」を常に想い、ご家族をはじめ、地域の方々と連携をとりながら職員一同、地域福祉のために努力してまいります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600493-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境に恵まれた場所にある事業所は、四季折々の移ろいを感じられる広大な敷地や遊歩道が整備されていて、清掃がゆきとどき、整理整頓ができて清潔な施設です。経営者と職員のコミュニケーションがとれていて、職員は働きやすい環境で、勤続年数が長い人が多いです。職員が変わらないのは利用者にとっても良いことで安心して穏やかに暮らしています。管理者や職員が介護や事例の一つ一つ現状に満足せず、真摯に向き合い解決しようと努力しているので思いや信頼が入居者にも伝わっています。職員体制にゆとりがあり、イベントが多く開催され、随所に職員と利用者の季節感が満載の色とりどりの共同作品が飾られていて、利用者の表情が明るいのが特徴です。食材を業者から購入し、火・木は専属調理者が調理をするため、職員はその時間を入居者とゆっくりゆったり

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 12月 1日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人たちと共にゆったりゆっくりと第3の人生を共に歩む。」理念に向けて、ゆったりとした空間、時間を公平・平等に提供できるように日々取り組んでいます。	入社時の研修で理念を説明し、日々の申し送りでも理念を振り返る機会がある。「ゆったりとゆっくりと」利用者一人ひとりのその人らしい日々を共に歩めるよう理念を意識した介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の組に所属し、自治会の行事のお手伝いや、行事に参加しています。また、グループ全体で行う祭には、地域の方々にお声掛けするなどし、交流を深めています。	近隣の散歩で、地域住民と挨拶を交わし顔見知りになり、野菜の差し入れがある。毎年、子供神輿や獅子舞が事業所を訪れ、利用者と交流している。地域の清掃や防災訓練に利用者に参加している。地域の祭りには事業所のカラオケ機材を貸し出すなど参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議等の地域の方との交流の場において、認知症ケアの勉強会等を行い、近隣町内の情報を得、私たちの専門性を活かした分野で、相談を受ける等しながら、お役立ちできる様、心がけ活動しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状、研修報告、活動報告等を報告させていただきながら、参加者の方々より意見を頂戴し、サービス向上に活かしています。	会議は定期的開催され、地域住民、行政が参加し、活動報告、ヒヤリハット、身体拘束、地域の高齢者問題等について活発に意見交換をする等、地域密着の役割を担っている。家族に関心を寄せてもらう議事録を送付し、参加要請をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員の方に参加して頂いたり、定期的に行われる、三島市グループホーム連絡会に参加し、様々な情報を共有し、市の見解を伺ったりしながら、交流をはかっています。	運営推進会議で意見交換を行う他、市よりファックスで研修の案内をもらっている。市役所でグループホームを紹介する写真展示に参加している。市からの依頼を受け、中学生への認知症講座の講師を務めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をおこない、理解を深めている。日中は、職員間で、利用者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	リスクマネジメント委員の会議が月1回あり、実例の検討を行っている。職員は研修で身体拘束やリスクについて理解している。ベッドの位置やマットレスの利用等で試行錯誤しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で、リスク委員会を開き話し合い、ケアカンファレンスでも、話し合いを持ち、身体拘束をしない、施錠をしない体制に勤めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に、制度を活用されている方がいらっしゃいます。管理者は、制度に付いての知識は持っており、必要性に応じ関係者と、報告、連絡相談をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族等に同席していただき、契約書及び重要事項説明書の読み上げを実施し、時間を掛けて説明しています。料金の改定等あった際には、家族会や、個々にお時間をいただき書面籐で説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関入口に設置。面会時など言葉掛けし、話す機会を持ち、日頃から、意見、要望の声が管理者や、職員に直接伝えやすい雰囲気を作っています。得られた意見、要望が反映されるように、努めています。	職員は担当制となっていて、家族の訪問時には担当職員が対応し、意見や要望を聞いている。家族から「看取りの際の対応」への意見があり、家族の心情を気付く良い機会となり、ケアに反映、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議や、普段の現場において、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。管理者会議でも各部署の現状として、報告、検討しています。	職員は会議や日々の業務の中で意見を言うことができ、急なシフト変更も皆で話し合い対応している。必要なものがあれば、稟議書を提出し検討して購入してもらえ。職員の要望で「濃い成分の牛乳」に変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自職員職務における達成度について評価を行ったり、資格習得における個々の向上心を把握し処遇につなげている。又必要に応じ職員面接を行い、やりがいを持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせ、シフト上可能な限り研修機会を確保している。定期的本部にて、管理者等と、経営状況要望など、話し合う機会を設けています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などをおこなっている。グループホームの連絡会に参加して情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。また自施設への見学も積極的に受け入れています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、管理者と職員は、アセスメントなどにより、生活歴を把握し、不安や、要望を把握できるよう、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、面接にて、細かい説明や相談に乗らせて頂き、ご家族様の不安、要望を把握できるよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、面接時に伺った情報及び、入居前に受けていたサービス事業所より情報提供を受け、必要な支援を見極めている。また、他のサービスが必要であれば、情報を提供し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、職員が頼るような場面もあり。出来る事はやって頂き、出来ない事をサポートしながら、共に生活を支え合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書と共に利用者様の様子を伝える写真付きの手紙を添え、ご家族様との繋がりを、大切にしています。又、すべてを施設で補うのではなく、ご家族の関わりもお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご近所で交流のあった方々との、面会や、外出支援も行っています。ご家族様には、可能な限り、ご協力いただき、外出等の機会を依頼してしています。	散歩中、昔からの知り合いが声をかけてくれ、長く話をするなど、関係が保てるよう支援している。体力の低下に伴い行きつけの場所へ頻繁に出かけられなくなっているので、支援方法を工夫している。	

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、その時の状況、個々の状態、入居者様同士の、相性等考え支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での暮らしが、安心して過ごせるようなサービス・情報は、積極的に、提示相談に乗るように努めています。その後の様子をご家族に伺ったり、退居先を訪ねたりさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室内の筆筒、ベットの位置の変更等をし、安全に自立できるように工夫しています。居室やトイレ前には表札をつけ、居室のわかりにくい方には、大きな文字で表札するなど分かる工夫をしています。	日々の会話の中から利用者の思いや意向を聞いている。ぬか床を持参した利用者の思いを尊重し、継続を支援している。家族から生活歴を聴いたりして、その人にあった過ごし方が出来るように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話・コミュニケーションの中から、馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様等から、生活歴を伺ったり、以前のサービス利用があれば、サマリー等で、情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、日々の介護記録等を確認する事で現状の把握に努めています。カンファレンス会議等で、その人にあった過ごし方が出来る様に話し合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意向の聞き取りと、毎月看護師を交え、ケアカンファレンス会議を行い居室担当職員を中心に、日々のケアからの気づきを、介護計画に反映させています。	利用者の要望や家族へは最近の暮らしぶりや体調を伝えて意見を聴き看護師からの意見と担当職員のアイデアを介護計画に反映させている。協力医からは日頃からの意見を集約して反映させている。介護計画作成後に家族に送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートに、いつもと違う状況や、新たな気づきを記録し、変更、申し送り事項は、文書、口頭で職員間で共有し、日々のケアや、介護計画の見直しに、活かしています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や、ご家族の希望、その時々生まれるニーズに対応して、弊社における同事業所間の会議で話し合い、可能な限り要望に近づけるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、子供みこし、獅子舞の来訪、職場体験、実習生などの受け入れなど積極的に行い、暮らしを楽しむことが出来る様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族等には、入居時に医療を受ける際の希望を聞き、かかりつけ医に通院して頂くか、ホームとの連携している訪問医師に移行するかは、ご本人とご家族等の希望に沿って決めている。	かかりつけ医を継続している利用者は、家族対応で受診し、医師に伝える事があれば職員が同行している。事業所の協力医に変更した利用者は、訪問診療を受けている。他科受診は職員が連れて行き、受診情報は受診記録用紙を使用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員が、週に2度健康チェックを行い、ケア会議にも出席し、気になる所は、アドバイスを頂くなど、医療面での適切な対応ができるように、支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願いし、自施設の対応体制も相談しながら、早期退院に繋がるように、努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合やあり方についての自施設の指針を説明させて頂いています。終末期には、往診や、訪問看護を利用し、ご家族様等と、ご本人様との相談を密にし、変化に応じて話し合いを重ねる事で、ご家族様の意向に添えるよう支援させて頂いています。	利用開始時に事業所の指針を説明し、どこで最期を迎えたいかを聴いている。重度化した時に医師や看護師から家族へ説明があり、対応を検討している。医師からは病院への入院を勧められたが、本人や家族の希望もあり事業所で看取った経緯がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し確認、対応が出来る様にしています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の災害時の訓練を行っています。緊急連絡網を作成し、通信・連絡方法の職員訓練もおこなっています。	年3回地震・火災・水害、日中、夜間対応訓練を行い、夜間訓練ではベッドから毛布に下ろし、誘導を行い時間を測定している。訓練の計画は防災管理者がさまざまなパターンを設定し管理者と話し合う。消防署や近隣住民に参加を促しているが実現できていない。	近隣住民とは日常付き合いがあり、関係が良好で、防災に関しても意見を伺っている。更に防災訓練に参加してもらうなど、協力体制を築くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の返答能力に応じた質問方法、ご本人が思っている現実をなるべく否定しないように対応しています。	新人職員教育では、言葉かけ等の接遇教育を外部講師に依頼し、立ち振る舞いから廊下の掃除まで指導している。利用者の居室へ入室の際ドアのノックなど基本的なことを継続して行っている。プライバシーに配慮して、お便りの写真を撮っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、身振り手振りなどの動作などからご本人の思いを受け止め、一人一人の表したい事を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・レクリエーション等も取り入れながら、余暇のじかんは、自由に過ごしていただけるよう、支援しています。入床、等ご本人の希望やペースに合わせた過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行けるよう支援したり、訪問理容の利用、一部職員の中で、美容師の資格者があり、カットをすることも有ります。着替え等も可能な限りご本人に選んでいただくなど、基本的な事を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食に付いては、週5日ワンクッツメニューを利用しています。2日間は調理職員が入り、調理を担当しています。又行事をつくり、メニューを自ら選べるバイキング型式で提供したり、おやつを一緒に作ったりしています。	利用者の重度化に伴い、きざみ・トロミに気を使っている。今は台所に立てる人はいないがおやつ作りを一緒に行い、おはぎ作り等で力を発揮している。行事にはちらし寿司やバイキング、花見のお弁当、流しソーメン、時には外食でのラーメン等食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を主食、副食に分けて毎回記録しています。水分補給の少ない方には、ゼリーや、好みの飲み物を提供しています。一人一人の状態や、力に合わせて、刻み、ペースト食等の対応をしています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉掛けを毎食後行い、出来る能力に沿った口腔ケアをおこなっています。眠前には義歯をつけ置きしていただくようにしています。必要時にはご家族と相談し、訪問歯科を利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表に記入しながら、一人一人の排泄パターンを把握し、時間的な言葉掛け、表情、言動、行動に注意を払い、誘導するなど自立に向けた支援をおこなっています。	夜間ポータブルトイレは用意しているが、できるだけトイレ誘導をしている。退院後オムツ使用だった利用者が、訓練をしトイレに立つ事が出来、日中リハビリパンツに改善している。様々な病気の方もトイレで排泄ができるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の周期の把握、朝食前に牛乳を、飲んでいただく。野菜ジュースジェリー等の提供。体操への参加を進めています。必要あれば、主治医に相談し、排便のコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週二回入浴していただけるようにし、ご本人の状態にも合わせ、日を差し替えるなどの対応をしています。状況によっては、時間を問わず、シャワー浴などの対応も行っています。	炭酸泉を使用し、温度調節をして午後に入浴を支援している。同性介助を希望する方はいないが、対応可能で、利用者の状態により2名で介助する場合もある。入浴剤や庭のゆずをお湯に浮かべゆず湯にする等、楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の体調や、習慣に合わせて、必要に応じて昼寝が出来る環境を、つくっています。気持ち良く眠っていただけるように、リネン類の洗濯布団ほしは、定期的におこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったり、新しく処方された場合は口頭と書面で随時職員間へ申し送り、理解する様にしている。薬の変更時には、体調変化など注意深く見守り、経過を記録に残し、必要に応じて主治医、看護師、薬剤師に相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、洗濯たたみ、お絞り巻など、個々の保有能力を活かして、家事に参加して頂いています。花見、散歩、ドライブなどの参加も、個々に呼びかけています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気温に配慮し、施設内の敷地で、食事をしたり、散歩に出掛けたりしている。入居者様のADL低下、相性等を考慮し少人数の(1対1)対応での支援もおこなっています。	近くの公園や神社への散歩をして気分転換を図っている。四季折々の菊や桜の花見やドライブを職員の付き添いを十分に行っている。また、近くのショッピングセンターに買い物などの個別支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際に、ご家族等にトラブルがあり得る事を説明し、希望があれば所持してもらっています。買い物に同行した際には希望を聞き、立替として、購入もして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所、各フロアより、希望があれば電話を使用していただいています。又、ご家族や、ご本人からの入居時の希望により、個々の携帯電話を、所持されている方、事業所に預けられる方もいます。年末は、ご自宅等に年賀状を送ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、リビングには飾り付けをしたり、壁3面が、窓になっており、季節を感じる風景が味わえます。清掃をまめにを行い清潔で安全な環境づくりをこころがけています。	自然環境に恵まれていて眺めが四季折々変化する。居間は三面窓があり外の移り変わりが感じられる。又2階の廊下は天窓があり明るい。清掃が行き届いているので臭い等ない。食事中はテレビを消しBGMを流している。居間には四季の飾り(クリスマス)で季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子を設置しており、相性、体調を考えた席替等を行い、穏やかに過ごせる様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、出来るだけご本人の使い慣れた物を持参くださるようお話し、住み慣れた空間で、穏やかに、居心地よく過ごせる様に、支援しています。	部屋の入り口は職員手作りの表札の飾りで分かりやすくなっている。大きなクローゼットが備え付けられ、出っ張りがなく動線がとりやすい。利用者はテレビや椅子等を持ち込み、個性が出ている。ベッドはエアコンの風が当たらない様配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の筆筒、ベットの位置の変更等をし、安全に自立できるように工夫している。居室やトイレ前には表札をつけ大きな文字で表札するなど分かる工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	平成28年11月4日	評価結果市町村受理日	平成29年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600493-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年12月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「富南の郷里」は、伊豆の玄関口の三島市の最南端に、函南町との境にあります。豆州志稿の秋山富南が生まれ育った、およそ3000坪の敷地の中に2階建てで建てております。北に富士山、東は箱根連山が見渡す事が出来、心和み、ゆっくり、ゆったりとした時間を過ごせる環境です。近隣の人たちのご理解と、さまざまな応援に支えられ「その人と共にある」を常に想い、ご家族をはじめ、地域の方々との連携をとりながら職員一同、地域福祉のために努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人たちと共にゆったりゆっくりと第3の人生を共に歩む。」理念に向けて、ゆったりとした空間、時間を公平・平等に提供できるように日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に所属し、自治会の行事のお手伝いや、行事に参加しています。また、グループ全体で行う祭には、地域の方々にお声掛けするなどし、交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議等の地域の方との交流の場において、認知症ケアの勉強会等を行い、近隣町内の情報を得、私たちの専門性を活かした分野で、相談を受ける等しながら、お役立ちできる様、心がけ活動しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状、研修報告、活動報告等を報告させていただきながら、参加者の方々より意見を頂戴し、サービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員の方に参加して頂いたり、定期的に行われる、三島市グループホーム連絡会に参加し、様々な情報を共有し、市の見解を伺ったりしながら、交流をはかっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をおこない、理解を深めている。日中は、職員間で、利用者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で、リスク委員会を開き話し合い、ケアカンファレンスでも、話し合いを持ち、身体拘束をしない、施錠をしない体制に勤めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に、制度を活用されている方がいらっしゃいます。管理者は、制度に付いての知識は持っており、必要性に応じ関係者と、報告、連絡相談をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族等に同席していただき、契約書及び重要事項説明書の読み上げを実施し、時間を掛けて説明しています。料金の改定等あった際には、家族会や、個々にお時間をいただき書面簾で説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関入口に設置。面会時など言葉掛けし、話す機会を持ち、日頃から、意見、要望の声が管理者や、職員に直接伝えやすい雰囲気を作っています。得られた意見、要望が反映されるように、努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議や、普段の現場において、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。管理者会議でも各部署の現状として、報告、検討しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自職員職務における達成度について評価を行ったり、資格習得における個々の向上心を把握し処遇につなげている。又必要に応じ職員面接を行い、やりがいをもち働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせ、シフト上可能な限り研修機会を確保している。定期的に本部にて、管理者等と、経営状況要望など、話し合う機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などをおこなっている。グループホームの連絡会に参加して情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。また自施設への見学も積極的に受け入れています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、管理者と職員は、アセスメントなどにより、生活歴を把握し、不安や、要望を把握できるよう、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、面接にて、細かい説明や相談に乗らせて頂き、ご家族様の不安、要望を把握できるよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、面接時に伺った情報及び、入居前に受けていたサービス事業所より情報提供を受け、必要な支援を見極めている。また、他のサービスが必要であれば、情報を提供し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、職員が頼るような場面もあり。出来る事はやって頂き、出来ない事をサポートしながら、共に生活を支え合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書と共に利用者様の様子を伝える写真付きの手紙を添え、ご家族様との繋がりを、大切にしています。又、すべてを施設で補うのではなく、ご家族の関わりもお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご近所で交流のあった方々との、面会や、外出支援も行っています。ご家族様には、可能な限り、ご協力いただき、外出等の機会を依頼してしています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、その時の状況、個々の状態、入居者様同士の、相性等考え支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での暮らしが、安心して過ごせるようなサービス・情報は、積極的に、提示相談に乗るように努めています。その後の様子をご家族に伺ったり、退居先を訪ねたりさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室内の筆筒、ベットの位置の変更等をし、安全に自立できるように工夫しています。居室やトイレ前には表札をつけ、居室のわかりにくい方には、大きな文字で表札するなど分かる工夫をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話・コミュニケーションの中から、馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様等から、生活歴を伺ったり、以前のサービス利用があれば、サマリー等で、情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、日々の介護記録等を確認する事で現状の把握に努めています。カンファレンス会議等で、その人にあつた過ごし方が出来る様に話し合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意向の聞き取りと、毎月看護師を交え、ケアカンファレンス会議を行い居室担当職員を中心に、日々のケアからの気づきを、介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートに、いつもと違う状況や、新たな気づきを記録し、変更、申し送り事項は、文書、口頭で職員間で共有し、日々のケアや、介護計画の見直しに、活かしています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や、ご家族の希望、その時々生まれるニーズに対応して、弊社における同事業所間の会議で話し合い、可能な限り要望に近づけるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、子供みこし、獅子舞の来訪、職場体験、実習生などの受け入れなど積極的に行い、暮らしを楽しむことが出来る様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族等には、入居時に医療を受ける際の希望を聞き、かかりつけ医に通院して頂くか、ホームとの連携している訪問医師に移行するかは、ご本人とご家族等の希望に沿って決めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員が、週に2度健康チェックを行い、ケア会議にも出席し、気になる所は、アドバイスを頂くなど、医療面での適切な対応ができるように、支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願いし、自施設の対応体制も相談しながら、早期退院に繋がるように、努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合やあり方についての自施設の指針を説明させて頂いています。終末期には、往診や、訪問看護を利用し、ご家族様等と、ご本人様との相談を密にし、変化に応じて話し合いを重ねる事で、ご家族様の意向に添えるよう支援させて頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し確認、対応が出来る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の災害時の訓練を行っています。緊急連絡網を作成し、通信・連絡方法の職員訓練もおこなっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の返答能力に応じた質問方法、ご本人が思っている現実をなるべく否定しないように対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、身振り手振りなどの動作などからご本人の思いを受け止め、一人一人の表したい事を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・レクリエーション等も取り入れながら、余暇のじかんは、自由に過ごしていただけるよう、支援しています。入床、等ご本人の希望やペースに合わせた過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行けるよう支援したり、訪問理容の利用、一部職員の中で、美容師の資格者がおり、カットをすることも有ります。着替え等も可能な限りご本人に選んでいただくなど、基本的な事を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食に付いては、週5日ワンクッツメニューを利用しています。2日間は調理職員が入り、調理を担当しています。又行事をつくり、メニューを自ら選べるバイキング型式で提供したり、おやつを一緒に作ったりしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を主食、副食に分けて毎回記録しています。水分補給の少ない方には、ゼリーや、好みの飲み物を提供しています。一人一人の状態や、力に合わせて、刻み、ペースト食等の対応をしています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉掛けを毎食後行い、出来る能力に沿った口腔ケアをおこなっています。眠前には義歯をつけ置きしていただくようにしています。必要時にはご家族と相談し、訪問歯科を利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表に記入しながら、一人一人の排泄パターンを把握し、時間的な言葉掛け、表情、言動、行動に注意を払い、誘導するなど自立に向けた支援をおこなっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の周期の把握、朝食前に牛乳を、飲んでいただく。野菜ジュースジェリー等の提供。体操への参加を進めています。必要あれば、主治医に相談し、排便のコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週二回入浴していただけるようにし、ご本人の状態にも合わせ、日を差し替えるなどの対応をしています。状況によっては、時間を問わず、シャワー浴などの対応も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の体調や、習慣に合わせて、必要に応じて昼寝が出来る環境を、つくっています。気持ち良く眠っていただけるように、リネン類の洗濯布団ほしは、定期的におこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったり、新しく処方された場合は口頭と書面で随時職員間へ申し送り、理解する様になっている。薬の変更時には、体調変化など注意深く見守り、経過を記録に残し、必要に応じて主治医、看護師、薬剤師に相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、洗濯たたみ、お絞り巻など、個々の保有能力を活かして、家事に参加して頂いています。花見、散歩、ドライブなどの参加も、個々に呼びかけています。		

静岡県(グループホーム 富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気温に配慮し、施設内の敷地で、食事をしたり、散歩に出掛けたりしている。入居者様のADL低下、相性等を考慮し少人数の(1対1)対応での支援もおこなっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際に、ご家族等にトラブルがあり得る事を説明し、希望があれば所持してもらっています。買い物に同行した際には希望を聞き、立替として、購入もして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所、各フロアより、希望があれば電話を使用していただいています。又、ご家族や、ご本人からの入居時の希望により、個々の携帯電話を、所持されている方、事業所に預けられる方もいます。年末は、ご自宅等に年賀状を送ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、リビングには飾り付けをしたり、壁3面が、窓になっており、季節を感じる風景が味わえます。清掃をまめに行い清潔で安全な環境づくりをこころがけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子を設置しており、相性、体調を考えた席替等を行い、穏やかに過ごせる様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、出来るだけご本人の使い慣れた物を持参くださるようお話し、住み慣れた空間で、穏やかに、居心地よく過ごせる様に、支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の筆筒、ベットの位置の変更等をし、安全に自立できるように工夫している。居室やトイレ前には表札をつけ大きな文字で表札するなど分かる工夫をしています。		